

第4回 天王寺区区政戦略会議

日 時：平成25年3月7日（木）

午後7時02分～午後8時57分

場 所：天王寺区役所 5階 502会議室

○事務局

では、すみません、お待たせいたしました。

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。ただいまから、第4回天王寺区区政戦略会議を開催させていただきます。

では、まず初めに水谷区長からご挨拶を申し上げますので、よろしくお願いたします。

○水谷区長

皆さん今日もどうもお疲れさまでございます。よろしくお願いたします。

私もこれで戦略会議に部会が発足して、皆さんの活動のほうを適宜ご報告いただいていたと思うんですけども、ほんとに精力的にいろんな関係機関、地域に飛び込んで行って、リサーチして、それぞれの部会で今日も発表いただくわけですけども、こういう政策が必要ではないかと、こういう取組が必要ではないかという具体案をまとめていただいて、ほんとに頭の下がる思いでございます。

そういった中で、ちょっと改めて皆さんに申し上げておきたいことがございます。それは何かと申しますと、皆さん戦略会議のメンバーということで、区政についてチェックして、かつ区政についていろいろと政策提案をいただくという、そういう職責で集まっていたらいいわけでございます。ですから、ここを踏まえてその職責の範囲内で行動をしていただくということをちょっとご留意いただきたいなど。何を申し上げますかと言いますと、戦略会議のメンバーであるからといって、例えば他団体と

かほかの会議で影響力を言って行使できると、そういうことはございませんから、皆さん改めてそこはご意識を共有と言いますか、統一させてもらえたらなと思います。

それから、この戦略会議と並行して、皆さんもご存じのように有識者会議が設けられております。いわゆる私が就任する以前の区政会議のメンバーさんたちによる会議なわけでございますけれども、この会議についてはメンバーさんのご意向を踏まえて、この戦略会議とは違って、毎月1回という形で会議の開催はしておりませんが、個別に区の職員が有識者会議の委員さんから区政に対するご意見とかを伺う中で、いろいろと我々としても参考にしているものがございます。一部ご紹介をいたしますと、せんだって区の将来ビジョンの案をまとめて区民の方々にご意見を伺ってきたわけですが、有識者会議の方からもいろいろご意見をいただきました。この会議でも、例えばこの災害時の要援護者に対して、家具取り付けは例えば業者等と協力してやるべきではないかというご意見をいただきましたけれども、これについて有識者会議の委員さんのほうからは、業者といえども、一口に言ってもいろいろあるから、そこで安全性をちゃんと担保できるように慎重に進めてほしいと。また、業者ということで決め打ちするのではなくて、中長期的にボランティアの方を活用いただくとか、そういうちょっと幅広い考え方を持ってもいいのではないかというご指摘をいただいて、それも踏まえて、パブリックコメントでいただいたご意見とともに、この将来ビジョンに反映させていただいておる次第でございます。

このように、ほんとに区政会議を今2会制で戦略会議と有識者会議と両方走っているわけでございますが、それぞれの会議から幅広い年齢層、幅広い価値観の方々からいろいろ意見を賜って、よりよい区政を皆さんとつくっていったらなというふうに思っております。

本日もどうぞよろしくお願いたします。

○事務局

ありがとうございます。

それでは、続きまして、早速ではございますけれども、議題のほうに進めさせていただきます。

それでは、議題としまして、各作業部会からのご報告をいただき、ご意見、ご提案を含めご議論いただきたく存じます。

では田中議長、よろしくお願いいたします。

○田中（英俊）議長

それでは、各部会資料がございますけれども、まず防犯・防災・地域社会の作業部会からご報告をお願いいたします。

○河村委員

防犯・防災・地域社会でのテーマ1ですけれども、24年度防災取組について、この中でも防災訓練事業というのがございまして、区役所がかかわってらっしゃる事業で、年間11回されているんですけども、この防災訓練、これとってもいい事業だなと思っております。防災リーダーとか、防災活動の支援事業とか、防災マップづくりとか、いろいろあるんですけども、この9月、天王寺区の防災担当の係長が福島県の南相馬市に出張していただいて、被災現場を見たり、現地の行政マン、市民、NPO関係との対話を通じて、天王寺区内の防災に活かせる、防災・減災を学んで、天王寺区内での防災対策、避難訓練、被害予想の見直しを行っております。防災の火災訓練の出前講座を増やす、天王寺区内の備蓄倉庫の推進、被害想定 of 徹底調査、この3つがこれからもどんどん議題になっていくと思うんですけども、その他で皆さんのご意見をいただきたいんですけども、防災は結構天王寺区の係長がとても優秀な方なので、どんどん推進されてらっしゃるんですけども、こういうふうにしたらいんじゃないかなというご意見があればいただきたいなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○田中（英俊）議長

司会を譲りますから。

○河村委員

そうですね、各地区で防災訓練をもっとしたらいかがかなと。防災訓練以外でも火災訓練等もどんどん行っていただきたい。細工谷付近はほんとに火災が発生したらとても危険な地区として思われていますので、その辺をよく理解いただいて、その地域でもっと火災訓練なり、防災訓練を行っていただけたらいいんじゃないかなと思っております。

次にテーマ2の継続事業、自転車安全運転について。先日4日、阿倍野区で自転車どうしの事故が起きました。1人は意識不明の重体ということになっております。警察庁の悪質な違反を繰り返した運転者への安全講習義務づけを盛り込んだ道路交通法改正案が公表されています。

天王寺区内で未来わがまち会議の自転車免許講習会。これは小学校4年生を対象とした自転車の交通安全を盛り込んだ免許交付を行っておる事業なんですけれども、毎年4月の校長会、教頭会で自転車の免許の講習会について説明した後、各学校日程調整をして決まった予定日、約1カ月前のPTA実行委員会で協力をお願いしているということです。当日の運営は天王寺警察署、未来わがまち会議とPTAの皆さん、該当の小学校と天王寺区役所で行っているということです。

実施校数で6ページになるんですけれども、8学校あるんですけれども、天王寺小学校、大江小学校、聖和、五条、生魂、桃陽、味原、真田山、537人ですか。その小学校各単位でやっていただいているんですけれども、どのようなことをやっているかと言いますと、資料7、8で信号を守る。自転車の曲がり角では止まって確認するということがされていると思うんですけれども、コース、学校の運動場に絵を描いて、そのコースを自動車の免許制度みたいに行っているんですけれども、その免許自体がこの11ページにありますこういう感じの物を発行されてるんですけれども、各小学校によれば学校の先生が写真を撮って、写真を載せたりとかいう事業も行っております。顔写真が載ってたらまずいということであれば、学校の校章とかになってたりもする

ようです。

予算ですけれども、24年度の予算が15万6,000円です。その中で免許証の印刷費、講習資料の作成費などが入っております。執行予算として、免許証の印刷が9万6,000円ほどかかります。講習の資料作成費が1万2,000円ということです。大体1枚178円で発行できるということなんです。今年度多いのは、聞いたところお年寄りも対象としたことで、資料分がその分ふえるということで予算が多かったんですけれども、次年度は子どもだけを対象としているので、11万2,000円ということになっています。

問題点としまして、1カ月前にPTAに協力依頼をということなんですけれども、これはもっと早く協力を促せば、保護者にも講習会を受けてもらえるのではないかと。

次に免許証の発行について、これは区役所で発行されているんですけれども、例えば企業とか、広告スポンサーを募ってみてはどうか。10万ぐらいなので、もしタイアップしてくれる企業があれば、無理ではないのではないかなと思っております。

その他、皆様のご意見とかをお聞かせ願いたいんですけれども、どうぞ。

○三木委員

問題点(1)のところについてなんですけれども、このPTAに協力依頼をすることで、全保護者に講習会を受けてもらえるのではないかとということですが、このPTAというものはそもそも任意加入の団体なので、全ての保護者がPTAに加入しているという前提で物事を進めると、別の問題が起きてしまうかなというふうに思うんです。というのは、私は教育・子育て・国際交流作業部会なんですけれども、PTAに加入をしていない保護者、もしくはその保護者の子どもが、PTAに加入していないということではじめであったりだとか、仲間外れに、何か疎外感を感じてしまうということは避けるべきではないかなと思うので、ここはPTAに協力依頼というよりは、保護者組織に対して学校として働きかけるというような形で、何かそのPTAに加入していない方が必要な情報が伝わらないということがないような形でお願いできない

かなと思いました。

○河村委員

その点について、僕個人で思ったのは、P T Aが中心となつてとこれは書いているんですけども、そのP T A、保護者の代表会というのがP T Aと思っているんです。そのP T Aさんに協力を促すというのは、その学校の保護者の代表が協力していただくというだけのことであって、保護者の方にそのプリントを配付してもらえれば、お父さん、お母さん来ていただいてもいいと思うんです。この皆さんに促して、学校の校長、教頭先生に協力をいただいて、保護者の方にも来てもらって、地域の人にも来てもらって、その講習会を一緒に受けるということがいいのではないかなと思います。

○三木委員

P T Aが保護者の代表という考え方はすごく危険だなと思いました。と言うのも、やはり区長もP T Aが任意の団体だつていうことは認識してらっしゃって、文部科学省においてもP T Aは任意団体だということで、学校と教育委員会のほうからも切り離されて考えられています。逆に言えば、行政の範疇ではない私的団体、任意団体である団体が保護者の代表というふうに、行政が考えてしまうことというのは、これはほんとにP T Aに任意で加入していない人たちが、自分たちは保護者の中から外されてしまうのかというようなことを思ってしまうんじゃないかなと思います。

○河村委員

わかりました。その点を踏まえてまた。

○原田（久）委員

三木委員、ちょっと勘違いしてもらいたくないのは、この部会で話し合ったのは、根本的にお子さんに周知徹底することによって自転車に乗るマナー、モラルが向上すると。せっかくその場にそういう場面を設けるんだつたら、家族も含めてきてもらうことによって、幅広く広がるんじゃないかなという目的だつたんで、決してP T A組織に限って言っているわけではないので、それだけはちょっとご了解いただきたいな

と。

○三木委員

もちろんです。保護者が講習会を受けるというのはとても大事なことだと思うんです。ただ、PTAに加入していない人にその情報が行き渡らないということ。

○原田（久）委員

それはじゃあ、またちょっと訂正するようにします。

○原田（照）委員

この自転車の関係で、私も前にもお話ししましたが、夜ウォーキングパトロールという形の中で、自分の町会内を回っているんですけども、その中で自転車に関して思うのは、やはり今一番多いのは携帯を話しながら運転。ここの資料の注意事項には書いてないんです。雨のときに傘を差して片手運転はやめましょう、これと同じなんです。これが結構多いです。若い方とか特に携帯で話しながら片手運転。これは結構多いです。何かこれだけのいろんな15項目写真があるのであれば、結構現実には今多いから、そういうものも加えていただければいいかなと思います。

それともう1点、当然夜回りますので、よくわかるんですけども、無灯、ライトをつけてない自転車。大体半分はつけていません。だからそういうものの実態、そういうものもいろんな形の中でもっとPRしていただければ、自分が見えているからじゃなしに、相手からも自転車が来てるということをよくわかるために、無灯とかそういうものの何かもっとなくすというか、取り締まるとっては何ですけども、そういう何か方法がないのかなと。パッと見ればわかりますから、これは。そういう面をちょっと思いました。

以上です。

○神崎委員

自転車のこの4日の事故ですか、あれを見ながら私感じたんですけども、自動車というのは任意保険が一般的には入るものというふうに認識されておるんですけども、

自転車においてもそういう保険があると聞いております。ただ、その加入率がどれほどなのかというのは今、詳しい数字は捉えておりませんが、自転車講習会で、こういった事故のためにこういう保険もあるんだ、というところをPRされたほうがお互いに不幸な被害者にならないようになったらと思います。そういう保険があるよというふうなこともつけ加えていただいたほうが、万一のためになると思います。

○河村委員

自転車保険ですね。

○神崎委員

何かあると思います。

○原田（恵）委員

私も携帯をしながらが一番危ないと思うのと、耳にイヤホンをしながら自転車を運転している人も多いので、それも注意の中に何か入れていただいたらと思いました。

○飛田委員

と言うか、多分それは注意じゃなくて、道路交通法で違反だって書いてあるので、携帯もイヤホンもどちらも。もう1つは、これをなぜ書いてないかという、小学校4年生ぐらいの子どもが対象なので、携帯持ちながら運転というのは、実際は想定してないのは確かです。だいたい小学校4年生ぐらいの子が携帯を持っては運転してないので。というのと、音楽を聴きながらの運転も小学校4年生が対象ということで書いてなくて、大人とかのほうが多分それは要るんじゃないかなという気がしますけど。

○田中（英俊）議長

警察は取り締まっているんですか。違反者がいっぱいいるのに全然取り締まってないでしょ。それは警察の怠慢ですよ。これは区役所に言う話じゃないですけども、だってうちの学園前は、自転車専用道路ができたにもかかわらず、歩道を猛スピードでおりてきて、逆に門を出たときに、歩道だから自転車はないと思って出たときに事故が起きやすいので、それは学生に注意をしてるんですけども、幾ら専用道路をつくっ

たって、使い方がよくなかったら事件は起きるわけですから。

それも含めて区役所のほうからもせっかくその自転車道路ができたんだったら、絶対使うように徹底しろとか、コーンが置いてあるんです、出口と入り口。そのコーンが壊されているんです。自転車の人が蹴飛ばすとかそういうことでしょう、邪魔だから。そういうものが町の人が注意したら、事件が起きる可能性がある。刺されるとか何とか。それを心配して黙っているわけで、やっぱり警察権力みたいなものが出てこない、なかなか変わっていかないんじゃないかという気はいたします。

それは自転車の事故を減らすために、区と行政、警察も行政の一部ですけども、府警が協力するような形も必要だろうというふうに思います。

○河村委員

この事由は大切だなと僕は感じたので、この防犯・防災・地域社会作業部会で皆さんとお話しして、提案しようということになりました。

○田中（英俊）議長

引き取らせていただいてちょっと今、余分なことを言いましたけど、今回のこの部会の提案は、既存の事業がどういうふうに行われるかっていうのは、非常に細かく調べていただいて、自転者の問題と防災の問題について、我々の知らないところまで調べていただいたということは非常によかったと思うんですけども、意見、これを全部消化してないと新たな意見は出ないし、非常に難しいんじゃないかと思うんです。だから、事務局のほうから配っていただいた意見を言う用紙もありますので、それにまた、思いついたり、これはどうだというようなことも含めて書いていただければというふうに思います。十分消化し切れないから、なかなか自分の意見をこの場で出すことが難しいところもあるのではないかと思うんですけども。

区長、何か。

○水谷区長

一応、その問題点というか、そこで挙げられたことについて、ちょっと簡単にご紹

介しておきますと、まず1カ月前に保護者に対して協力依頼、PTAに対して協力依頼ということですが、もうちょっと早くすればみんな受けるのではないかというご指摘かと思いますが、今現状、講習会自体が平日の午前中に実施されてきたという経緯がございまして、こうなるとなかなかやっぱり保護者の方はもちろん外に働きに行かれてる方も多ございますから、参加も非常に限られてくるのかなと。ただ、これまでの実施の経過を改めてより多くの方にこの講習会をご参加いただくために、各地域単位でどういう日に、どういう形で、どういう内容で実施するのがいいのかという議論も当然ありましようから、今現在、区役所のほうでも、各地域単位で地域活動協議会の形成に向けた取り組みというのをやっているわけですが、そこともまた連動させた形で、その地域に一番最適な形でのこの講習会の実施というのが、非常に重要なのかなと。もちろん、区役所としてもそれをご支援差し上げたいなというふうに思っております。

それから、この予算額なんですけれども、24年度予算、来年度予算、予算要求してる額11万2,000円ということで、金額的に見たら下がっているように受けとめられるかもしれませんが、基本的には今年度の執行予算をベースに、現状が継続されるような形で組ませていただいております。

それから、この一番の支出に当たる免許証印刷費でございますけれども、これに広告をつけるというご提案は、これは非常におもしろいご提案だというふうに受けとめております。基本的に、広告を掲載することは、法的にも可能でございますし、ただ、問題は大体500枚とか、数百枚単位でこれを印刷するわけなんですけれども、それに広告効果を見込んでくださる企業がどれぐらいいるかと、そことの個別交渉の世界になってこようかと思っておりますけれども、積極的に検討するよう今日担当課長とも話をさせていただいたところでございます。

それから最後、田中議長から先ほどご指摘あった学園坂の件でございますけれども、私としても確かに市役所の中の区役所、それから府のほうの府警という形で、領域が

違いますけれども、ここは意思疎通を緊密にしていけないといけないという認識を持っております。定例的に区役所のほうに警察を初めとする関係機関に来ていただいて、行政連絡調整会議という形で、近況報告をし合ったり、お互いに連携が必要なところは確認し合ったりということも積極的に行っております。区役所のほうで感知した交通情勢の悪化、犯罪情勢の悪化についても即座に天王寺警察署のほうに上げて、対応をしていってもらえるように、また我々もそれをサポートしていけるように、そういう流れを徹底していけないといけないなということを今、議長のご指摘で改めて認識させていただきました。

以上でございます。

○越村委員

報告の補足なんですけれども、ちょっと今日は資料ができなくて、前回の作業部会の際に出た、来年度の新規事業で独居高齢者の見守りサポーター事業なんですけれども、ちょっとまだ作業部会時点で大阪市の予算プレス発表ができてなかったのも、ちょっとまだ作業部会時点で大阪市の予算プレス発表ができてなかったのも、ちょっと文書も出せないということだったので、担当課長さんとヒアリングをさせていただいた内容を皆さんにちょっと簡単に報告させていただいた上で、簡単な話だけしたいんですけれども、基本、役所行政というところで、公的責任ということで、高齢者見守りのところに手を入れていくというのは、すごく効果的なんだけど、やっぱりこれだけでやりきれんのだろうか。例えば孤独死、その防止にこれだけではやっぱりしんどいところがあるんじゃないかということも含めて、皆さん結構いろいろ意見が出ましたので、次回、また来週作業部会がありますので、もうちょっと予算発表も済みましたので、ちょっと資料もいただくか何かして、具体的に話をして、次回のこの会議ではまた報告させていただきたいと思います。

○水谷区長

越村委員ご専門だから、細かく私のほうから申し上げるあれじゃないですけど、基本的にああいうやっぱり福祉施策、命を守る施策については、これがあれば大丈夫と

いうのはないですよ。だから、地域の輪が必要であるし、もちろん社会福祉協議会のほうで活動していただいていることも大切ですし、我々のほうでやることも、社会福祉協議会のほうも新しく地域支援ワーカーが今年入ってきますし、また我々のほうでこの高齢者見守りサポーターと。やっぱり多層的に重層的にこのセーフティーネットを組んでいくことが非常に重要なことというふうに思っております。また、そういう観点でも、ぜひ議論させていただけたらなと思っております。

○栗谷委員

私、PTA会長の際に、この自転車講習会のほうを主催させていただいて、私もお手伝いをさせてもらったんですが、実際4年生、当時45名ぐらいですか、参加させてもらって、1つできるのであれば、こまあり自転車。やっぱり自転車に乗れない子がいるんです、中に。ちょっとそういうこまあり自転車もあれば、ふだん乗れてない子だけでも、今後乗る可能性があるのであれば、そういう家庭ではないですけども、そういうのも一つ一つ考えていただければありがたいと思います。

○田中（英俊）議長

自転車は家庭の責任で教えるんですよ、子どもには。

○栗谷委員

基本的にはそうですね。

○田中（英俊）議長

学校で乗り方を教えるということはしないんですか。

○栗谷委員

うちの子どもなんかは実際、堺市の鳳公園ですか、そこで半日合宿というのがありまして、そこへ連れて行って乗れるようになって。堺はもともと自転車の産業の町で、堺市がそうやってボランティアでやってくれるのがあって、それに参加させてもらって乗れる。ただ、親が教えるとなるとなかなか難しい。休日の午前中にこう教えるしかないですよ、公園で。

○三木委員

今、栗谷委員の言葉を聞いてはっと思い出したのが、私、中学校まで自転車乗れなかったんです。いまだに乗れなくて、私の大学の女性の友達でも今も乗れない子がいます。そういう子たちってというのは講習会するとき、恥ずかしい思いをしているのかもしれないなというふうに思ったんです。私も同級生から自転車も乗れないのって言われるのが嫌で、乗れないのに自転車を押して駅まで歩いたことがあったので、講習会というのが学校の授業時間内に行われると、そういう子もいるのかもしれないと思いました。

○田中（英俊）議長

それは学校がやるかどうかの話で、区役所の話と違うんですけども。でも、皆さんが同じように練習して、同じように乗れて、特に関西というか、大阪はシマノさんもありますけども、自転車の県、府でもありますし、何か特徴のある地域づくりの中で、そういう活用もできるんじゃないかと思います。堺市の都市政策研究所の客員研究員をずっとやっていて、自転車でこの町を売り出せと言ってもなかなか、堺市でもできないんです。だからどっかの町が、例えばツールドフランスのまねしてやるのが堺、大阪ではなくて、ほかの県で今度やることになって

○水谷区長

ツールド下関ですね。

○田中（英俊）議長

そうですね。それで残念だなと思ったりして。そういうことも大阪が取り組んでもいいんじゃないかと思うんですけど。

○飛田委員

でも昔やっていたんです、大泉公園で。

○原田（照）委員

シマノの自転車って世界一ですよ。

○田中（英俊）議長

ほとんどの人が使っているようですから。ちょっと余分な話をしましたけど。

そんなことも含めて、安心、安全のまちづくりの中で、自転車の今回痛ましい事件が起きたりしたことも含めまして、真剣に取り組む話ではないかと思ひまして、これも先ほどの話ではありませんけども、区と警察がどういう協力ができるかということも含めて議論していただければと思います。

まだ、ご意見あるかと思ひますけど、時間の割り当てがございまして、次のシティ・プロモーションのほうに移らせていただきたいと思います。

○内本委員

シティ・プロモーションのほうで何度か会議のほうに出させていただきます、今回天王寺区役所のほうへは、そのシティ・プロモーションのどちらかという細部の部分ではなく、大枠の部分。それが体制の強化であったり、ソフト面のその投資というところを中心にご提案させていただきたいなと思ひています。

シティ・プロモーションという名前を、この中にもよくご存じの方もいらっしゃる、まだ聞きなれない方もいらっしゃると思ひますけれども、簡単な定義といたしまして、地域、天王寺区を持続的に発展させるために、この天王寺区の魅力をどのように地域の内部であったり、この地域以外の部分に訴求していくかというのがポイントになってきます。これが効果的に訴求できたことによって、人、物、金、情報というのがこの地区に集まってきて、それをうまく人が活用していったりですとか、外から来た人がこの地域にあるものを生かして何かしていきたいというふうな発想になってくると思ひます。これがシティ・プロモーションの主な定義というふうに思ひいただければなと思ひます。

このシティ・プロモーションを効果的に訴求できたとしたら、どういった効果があるかと申しますと、これはいろんな目的によってもこの効果というのは変わってくると思ひますが、わかりやすく言えば、観光客が増えてきたり、この天王寺区に住み

たいという方が増えたりですとか、あとはこの地域に長く住んでいる方が誇りを持って、この天王寺区というものを友達であったり、外にうまくPRしていける、そういう地元愛というものを根づかせるなどの効果というのはいろいろあると思うんです。このシティ・プロモーションをここ数年流行ってきた言葉ではなく、結構いろいろ調べてますと、地方自治体、主に全国的にこのシティ・プロモーションというものは、結構、名前的には浸透しているものだなというように私自身は思っていて、インターネットのほうでもシティ・プロモーションというふうに打っていただければ、いろんな自治体が課を設けていろんな取組をされていたりですとか、結構皆さんが知っているような知らないような情報でも、その地域にはすごく効果的にプロモーションとして生きているイベントというのはかなり多くあるなというふうに、私自身実感しています。

シティ・プロモーションが、今この天王寺区で、こういうふうに議題に上がってくるというのには、背景があるなと私は思ったんですが、もともとこの大阪市というものは、区ごとに力を入れてこの町自体をPRするというところに余りフォーカスされてなかったのではないかなというふうに考えていまして、どちらかというところ、この大阪市が一律のサービス、同じようなサービスを区ごとにされていたと思うんです。ここでなぜシティ・プロモーションというのがこの議題に、この戦略会議でも上がってきたのかなというふうに考えたんですけれども、区長が新しく外部から就任されて、その区ごとに独自のサービスができるようになったからではないかなというふうに考えています。そういった区ごとの独自のサービスをこれから区民の方、もしくは区外の方に効果的に発信するうえで、独自に区ごとにこのシティ・プロモーションをしっかり強化していく体制というの、同時に必要になってきたのではないかなというふうに思っております。

では、このシティ・プロモーションをどういう形で成功に導いていくのかという問いになるんですが、やはり私たち戦略会議というか部会のほうでも、このシティ・プ

ロモーションをどういうふうに活用していく、もしくはみんなでこのシティ・プロモーションにどういったイベントができるか、どういったエリアを使って、どういうふうにアピールしていくかというのかなり話題になって、皆さんいろんなおもしろいアイデアというのが出てきたんですけれども、やはり主体となる方が誰なのか、責任の所在がどこなのか、主催となるところがどこなのかというのが明確でない限り、そういうおもしろいアイデアを考えても一緒なんです。ここで私たち、部会のほうでも話に上がったのが、やはりこのシティ・プロモーションという名前だけに、天王寺区役所が主体となるということが基本的に大前提だなというふうな結論に至っています。これはもう天王寺区役所が、会社ではないんですけれども、地域経営の視点で、主体となって取り組んでいくところから、このシティ・プロモーションというものが始まっていくのかなというふうに考えております。

その成功の要素として挙げられるものが、やはりこのPR、シティ・プロモーションを強化していくその体制をまずつくっていくこと。2つ目に有効的な戦略というものを考えていく。というのは、戦略というのは、例えば1つだけのイベントを1年間、1年に1回おもしろいことをするというわけではなく、1年を通して、どういった形でこの町をPRしていくかというの、連携して考えていかなければいけないというふうに思っています。

3つ目に、企業がいろいろやっているように、マーケティングの発想で、やはりターゲットが誰で、そのターゲットに対してどういうことをやっていくかという考え方が必要ではないかなというふうに思っております。

じゃあどういった取組ができるのかなというふうに考えているんですが、考えればほんとにたくさん考えられるんですけれども、今実際に天王寺区役所のほうでも取り組まれている内容であったり、逆に今ないものをどういうふうにつくっていくかというところで、ちょっと3つ施策のほうを考えさせていただきました。

1つ目なんですけれども、まずシティ・プロモーション課など、いろんな名前がい

ろいろ自治体ではつけられているんですけども、まず天王寺区役所の中にこういったシティ・プロモーションという課自体をしっかりとつくっていただいて、体制が、事情がいろいろあるかと思うんですけども、2名なのか3名なのか、そういった体制をしっかりとまず組んでいただくところからスタートするのかなと思っております。

まず目的としまして、広報機能の強化。以前区長のほうに今どういった体制でされているのかとお話を聞いたところ、まず1名の方がしっかりとメディアに対してリリースを書かれたりですとか、その広報というところに特化してされているというお話は何ったんですけども、やはり私も仕事をしていて、1人でできる範囲というのはすごく限られてくるんです。そういった意味でも、しっかりと体制をつくって、役割というものをしっかりと持っていくことがまず必要かなというふうに思っています。

効果的なPR活動、これもしっかりと体制ができることによって、アイデアというものもう少し深まっていくのかなというふうに思っています。あとは民間との連携をしっかりとれる体制であったり、人材を育成していく、それはもう単に区役所内でPRを常にしていくという発想ではなく、やはりPRという会社との意見交換であったり、連携というのも強化できるのではないかなというふうに思っています。

資料の右のほうにR25で、これはリクルートが無料で発行しているフリーペーパーになるんですけども、そこに2010年3月に掲載されていたシティ・プロモーションの設置の話題の記事にはなるんですけども、これは2010年の4月に東京の足立区が先駆けとして都内でもシティ・プロモーション課が設置されましたというふうな記事ではあるんですけども、東京の区でも2010年からこういった自治体がプロモーション課というのを設置している傾向があるんですけども、その下に栃木県、宮城県、静岡県、長野県というふうにも、いろんな地方自治体ではじつはもっと前から、そういった体制をとって、その課があることによって具体的にいろんなPRの落とし込みというのはすごくされているなというのは、ウェブサイトを通してでも、各自治体の取組というのは見られるので、ほんとに盛んな、プロモーション

課を設置することが特に珍しいわけではなく、ほかではもうされているというのが世の中の常かなと思いました。

次、施策の2つ目なんですけれども、シティ・プロモーションに取り組む上で、まず自分たちが天王寺区役所の持っている媒体をまず、見直していくべきかなというふうに思いました。これはもうほんとにすぐにでも取り組めるものなので、ちょっと2つ目の施策としてご提案させていただいています。自社媒体の有効的な投資というところなんですけれども、簡単に私もこちらに来てまだ浅いんですけれども、天王寺区ってどういう媒体がまずあるのかなというふうに考えたら、もちろんホームページであったり、区長が発信されているフェイスブック、ツイッターであったり、天王寺の広報紙であったり、ほんとにいろいろ媒体というのはあるんだなというふうに思っています。ただ、この媒体というのは、例えばPRの会社で考えたときに、ほんとに効果を測らない限りは、その媒体の価値というのとはかれないんです。例えばそのホームページであったり、ホームページはちょっと難しいかと思うんですけれども、この天王寺の広報紙で考えたときに、たくさんお金をかけて刷ったはいいけれども、それがほんとにどれだけの人に見られていて、そこにイベントを告知することによって、どれだけの人が来るのかというところまでしっかりはかれないと、その媒体が発行されている意味ですとか、お金をかけている意味というのは、本来であればわからない部分かと思うんですけれども、そういったところがしっかりまず測っていけると一番いいのかなと思っています。

2つ目のソフト面への投資なんですけれども、ここ最近の話題の中で、デザイナーの募集の件でホームページのほうに記載されていたかと思うんですが、一旦は中止という形で、ワークショップという形でその体系を変えられているかと思うんです。あの件で、インターネットにどういった形で、市民の方なのか、その外部の方なのかが見られているかという、かなり履歴にも残っているんですけれども、何で無償でデザイナーを募集するんだとか、どちらかとネガティブな意見が非常にネット上では情

報としては出てたと思うんです。そういったPRしていく、何かいいものを発信していくというときに、投資するものというのに、一番結構後回しになるものだと思うんです。例えばデザイナーへの投資であったりですとか、こういったPRの案を考えるのに無償でほんとにいいものが考えられるかという、なかなかそういう点ではなかったりするんで、そういったハード面ではなく、ソフト面に対する投資というものも、少し強化されてもいいのではないかなというふうに感じました。

ちょっと駆け足なんですけれども、施策3つ目なんですけれども、官民一体の施策の強化なんですけど、これはもう区役所内に体制がしっかり整ってからはあるかと思うんですが、結構民間としっかり強化して、パイプをしっかり持つていくということと、民間との交流というのをもう少し増やしていけるのではないかなというふうに思っているんですが。ちょっと右のほうに相模原市のホームページの記事であったり、ネットからとった記事をとってきているんですが、地方自治体でいろいろシティ・プロモーションに関するイベントというのは、数多く行われているんですが、この2例に関しては私が実際仕事で担当させていただいた案件なので、具体的にご説明できるかなと思ひまして、例に挙げさせていただいているんですけれども、まず相模原市のこのスポーツチーム3つが誕生しましたという、これ自体に3つが一緒に連携しているというところはかかわってはないんですが、この3つの一番左にあるノジマライズっていうアメリカンフットボールチームの件でちょっとかかわらせていただいたんですが、当時オンワードスカイラックスという食品系の大手の会社があるんですけれども、外食産業なんですけれども、そこがアメフトチームを持っていて、ここ3年前の話なんですけども、企業スポーツ撤退というニュースがかなり流れた時期があったんです。そのときに会社としてこのチームを運営できないということで、地域に密着したスポーツチームになりたいということで、ちょっと私が所属していた会社のほうに依頼があったので、担当させていただいたんですが、その当時このアメフトのチームは相模原市にあるオンワードスカイラックスのグラウンドでアメフトを練習していた

した。こういった形で、地域、地方自治体である市行政と組みたいというような企業というのは、結構たくさんあるんですけども、企業側からしてもなかなか行政とするのが難しいのかなというような印象が結構強かったりするんです。そういったところを行政側が逆に受け入れるような体制をしっかりと示すことによって、もう少し今までなかったようなイベントが向こう側から、向こう側というのは企業であったり、いろんなNPO、NGOであったり、そういったしっかりお金を持った組織が主体となってやってくれることによって、お互いに相乗効果というのは図れるんじゃないかなというふうに思っています。

そういった意味でも、官民一体の施策の強化というのは、すごく重要な部分であるんですけども、行政側としては、どちらかという受け入れるような体制をしっかりとアピールするということが重要になってくるのではないかなというふうに思っています。

最後、こちらは区長へのご提案にはなってしまうんですが、1、2、3の施策を実際にこういった形で取り組んでいただける可能性があるのかというのを、部会のほうでもちょっと伺ってみたいなのがあるのと、もしくは逆に進んでいるような施策があるのであれば、教えていただきたいなというふうに思っております。この1、2、3がうまく大枠がしっかりと組めるような体制があるのであれば、逆に今後もう少し細部の部分、例えば天王寺公園を使ってこういったイベントができるですとか、このエリアでもっと今までなかったようなイベントをうまく持ってこれるんじゃないかとか、いろんな部会でのいろんな皆さんの意見があるので、そういったものを少し当てはめて、もう少し詳しいご提案が今後の機会でご提案できるんじゃないかなというふうに思っております。

○田中（創）委員

続けての報告になってしまってちょっと申しわけないんですけども、資料のほうの具体的な、先ほど内本委員のほうからは、仕組みづくりということでの提案かつ区と

してどういうふうに取り組がなされているかということの改めて情報を教えていただきたいというようなことだったんですけれども、それと並行しまして、チームとして具体的に動いているところもあります。それは例えば、前回も報告いたしましたけれども、樂市樂座という四天王寺参道を使ってのフリーマーケットなんかをやっていきたいということを提案していたんですけれども、実際に地域のほうで動き出している動きがありまして、実行委員会を立ち上げて、地元の商店街がメンバーを探しているというふうな動きもありますし、四天王寺のほうで先日わか市というのが毎月あるんですけれども、そちらのほうにも何人かで行ってきまして、意外と宣伝がこじんまりとされているので、地元の人たちもあんまり知られてない。毎月第1日曜日なんですけれども、割と70店舗ぐらい出店してまして、手づくり雑貨であったり、有機食品、有機栽培でつくられた食品であったりとか、1店舗1店舗ごとが非常に気合いの入った店が多くて、そういう意味で若い人も結構来ていましたので、今後成長する可能性はあるイベントだと思っています。

そういうわか市なんかにしても、取組はあるんですけれども、地元がすごい一生懸命やっているんですけれども、そういうところに区として宣伝を手助けしてあげる。それはあまりお金を必ずしもかける必要がないんじゃないかなとは思っています。お金がそんなにかからない範囲で後押しをしてやるというふうなことは可能かなと思っています。

そういう形で、四天王寺と四天王寺参道との動きをリンクさせるということも今後、可能ではないかなという可能性を見出したりしています。あとは、天王寺公園、あと戦国博という提案もあったんですけれども、戦国博については、2015年に向けて大阪市が実際、動き始めてる。恐らく大きなイベントをするんじゃないかと思われます。

シンボルイヤーとしての位置づけということですので、400周年大坂の陣、400周年かつ道頓堀も400周年、それから天王寺動物園が100周年ということで、

これは大阪市がきっと主体になって動いてくるだろうなどは思っています。その中で天王寺としても、市のプロジェクトに乗っかろうという意識だけでは置いてけぼりを食らう可能性もありますので、ここは市に先駆けて、むしろ400周年を待たずに、そのイベントみたいなものを実行するぐらいのことをやっていてもいいんじゃないかと、そういうことを考えると、大きなイベントということを見ると、実行委員会的なものが必要になってきますし、区として動くということが内本委員からも先ほども説明あったように、区として体制を整えていただき、特にそういう大きなイベントをするときはということで、そういったことをより具体案を進めていこうとしているところです。

すみません、説明が続きまして恐縮ですが、ご意見とかをいただければと。

○田中（英俊）議長

区長に質問が投げられているんですけど。今、区の中でどういうふうになっていて、これからどうしようと思われているかという質問に対して、答えられる範囲で。

○水谷区長

そうですね。ちょっとそれも含めてお話しさせていただきたいと思います。

ちょっと話が結構分散的になり過ぎているのかなという感があって、私も私なりにこのシティ・プロモーションってキーワードで、具体的に何ができるかというプロジェクトを考えて、また職員も考えていますけれども、せっかくシティ・プロモーション作業部会ができ上がって、前回の発表でいろいろ楽市楽座とか、具体案が出てきたから、ぜひそういうのをちょっといろいろと細かく細部まで詰めていって、コンペ形式ではないですけども、皆さんでかざし合って、議論できるみたいなことがやれたら望ましいのかなと思っています。

いただいた個々の論点についてちょっとコメントをさせていただきたいと思うんですが、まず内本委員が発表いただいたシティ・プロモーションの成功要素3つです。この推進体制の強化、ちょっとご指摘の中で広報担当が報道発表を書く人間が1人と

というのがありましたけども、ちょっと私の説明が至らなかった部分があったかもしれませんが、大体5人ほどで広報担当という形でやらせていただいております。シティ・プロモーション課の設置ということなんですけれども、これはシティ・プロモーション課という器をつくったからといって何かが変わるというわけではないですから、その器のあるなしにこだわる必要はないのかなというふうに思っております。また課というからには、今大体区役所で120人ほどいて、大体1課当たり20人ほどメンバーがいるわけですが、それぐらいの規模感を持たないと、課という上で、行政的な整合性、組織内での整合性が保てないわけです。やっぱりそのシティ・プロモーション専従でそれだけ人員を裂けるかと言ったら、そのもろもろの人繰りとか、やはりそれだけいて何か大きく変わるのかと、5人いるのと20人いるのでそれだけ大きく差が出るような職域かと言えば、必ずしもそうではないと思えますので、現状のこの5人ほどの体制プラス実際イベントの企画、立案等を行う市民協働課のほうに担当者が今後設けられていくわけですが、そのシティ・プロモーション担当の市民協働課の職員と広報担当とが連携する形で、実質的なシティ・プロモーションを図っていききたいなというふうに思っております。

いろいろとこのシティ・プロモーション課を設置している自治体があるということをおも重々認識しております。ただし、厳しく言わせていただければ、このシティ・プロモーション課というのも、もはやコモディティーだと思えます。コモディティーって意味は、もうありふれた品々ということです。シティ・プロモーションという課を設けて、そこで何かイベントを実施したからといって、全国的な訴求力が発生するということは、そういう単純なことではないということは、この実例が示しているんではなかろうかと思えます。例えば、個別に名前を挙げて言うのもちょっと恐縮なんですけれども、浜松市もこれ全国的な浜松ファンをつくっていくと、高らかにうたっているわけですけども、そんなに皆さんの周りで浜松を愛してるみたいな人がいっぱいいるなという感を受けますか、受けないですね。それから、仙台カフェとか独自

の取組をしますけれども、これもほんとにどこまで全国的に認知度が普及しているのかなといえは疑問符でございます。

ということ踏まえたら、ゆるキャラなんかにも同じことが言えるんですけど、47都道府県、猫もしゃくしもほんとにゆるキャラをみんなつくって、ゆるキャラをつくれれば何かが変わるってみんな期待するかもしれないですけど、ゆるキャラも群雄割拠で、ゆるキャラつくっただけだったら、埋没してしまうわけです。いかにそのマーケットの流れをちゃんと踏まえて、逆張りするなら逆張りして、独自性を出していくかと。そういう観点からシティ・プロモーションも考えていかないといけないのかなと。ほかの自治体やっている定石に、がんじがらめになるのではなく、いい意味でその前提を設けずに、バイアスを設けずに取り組んでいくことが必要なのではないかと。というふうに思っております。

2つ目のこの有効的な戦略というところなんですけれども、これもつながってくるところなんですけども、まずデザインパートナーの件に言及いただいてほんとにありがたいんですけども、あれも別に何ていうんですか、ソフト面への投資をしたくないという行政のマインドのあらわれとかでは決してないです。あれはどちらかという、今まで行政というのは、数々のボランティアの方にご協力いただいて運営してきたわけなんですけども、例を挙げれば、民生委員の方もそうですし、司法書士による無料相談もそうですし、そういう方々のほんとにボランタリーのお心遣いで、地域も行政も回ってきた経緯があるわけなんですけども、その延長線上で、デザイナーの方にご協力をお呼びかけしようとしたと、また、どちらかというプロのデザイナーだけではなくてアマチュアの方をメインターゲットにして、実際そのアマチュアの方にヒアリングをさせていただいて、そういう意思を持っておられるということを表明して下さった方が多数おられたからこそ、そこでご協力できるかもしれないと、しかし実際協力を考える上では、より間口を広げて、ほかにもそういう手を挙げる方がおられるかもしれないから、また取り組んで行けたらという趣旨で始めさせていただいたわけ

で、基本的にソフト面への投資を忌避しているとかそういうことではなくて、それはまた別の話として検討する余地はあるということでございます。ただ、行政というものは、例えば民間企業とかだったら今月はこの商品で行こうと、今年はこの商品を売り込もうと、単一に絞ることが可能かもしれませんが、やはり福祉、それから環境、それから教育と多岐にわたるその分野を並行的に進めていかないといけない、どうしてもその宿命を帯びておりますので、そこはそういう喫緊性が高い、優先順位が高いものから予算配分していったら、そのホームページの改修とか、そういうところに対しては非常に限られてしまわざるをえないと。そこをどういうふうクリアするのかなというところで、ちょっとまた話が戻りますが、先ほどのデザインパートナーのような、ボランティアの方々はどう協力していただくかということも今後もやっぱり検討していかないといけない、そういう方向性は持つておかないと、現実的に回らないのかなというふうに思っております。

それから、この有効的な戦略をもう少し申し上げますと、具体的に私が考えているのは、大きく2つございまして、1つは、今日もお話何度もありましたけども、区内でいろんな建物が建って、マンション建設も進んで集合住宅比率が80%に上っているというこの現状にあって、多くの人が集えるような土地というかスペースがやっぱり限られているという現状があるわけです。そうした中でやっぱり約28万平米を誇る天王寺公園、このエリアは非常に魅力的だというふうに思っております。もう皆さんもご存じのようにドイツビールの祭典であるオクトーバーフェストとか、冬にはイルミネーションとか、また区役所のほうとしても天王寺蕪収穫祭という形で、いろいろイベントをやっておりますけれども、そうは言ってもまだまだ通年で見たときに、あそこの土地が遊休化している、空き地化しているときというのが多いと。こういう状況をいかにして減らしていくかと、区役所主導ではなくて、民間の方々のご協力もいただきながら、天王寺公園に行けば何か恒常的にイベントがやっているというような状況をいかにしてつくっていくかというところが、やっぱり今年以降の勝負になって

くるんではないかなというふうに思っております。

それからもう1つとして、いかに天王寺エリア活性化しても、天王寺区もやっぱり縦に長い土地でございますから、真田山地域とか、あるいは上六のあたりとか、そこにそのにぎわいをどういうふうに広げていくかということも、これ重要な課題でございます。

この辺についても、私もこの間もヤフーさんとかニフティさんとか、いろいろそういうウェブを使って地域活性化に取り組んでいる企業の方々、中には政府のCIA補佐官をやっておられる方もおられましたけども、やっぱりもろもろヒアリングしていく中で思ったのが、やっぱり先ほどのゆるキャラが群雄割拠の中でどう打ち勝つかという話にもつながってくるんですけども、新規性と独自性がある、かつちゃんと理にかなったような経済振興策をいかにして打っていくかということに尽きると思うんです。例えばいろいろ私が興味を持っている中でご説明しますと、民間の中でもアイボールシェアをいかにして奪って、売り上げを伸ばすかということが言われている時代でございます。アイボールシェアっていうのは、要するに眼球をどれだけ独占できているかということで、わかりやすい例で言えば、例えば駅前とかに電光掲示板か何かがあって、おいしそうな料理の映像が流れていたり、あるいはゲームセンターとかでそういうネオンサインみたいなものがあったりかはするかもしれませんが、そういうのを見ると、どうしてもそのエンターテインメントを楽しみたいという気持ちがおられて、その店先に入っていくと。要はそういう人の心の動線と言いますか、天王寺区の商店街なら商店街に何かその愛着を感じてもらえるような、そういう動線をいかにこうやって確保していくかというときに、一番よく言われているのがウェブ上でそういうサイトをつくって、商店街の紹介をして、そこに客を引き込んでいくことを言われていたわけですけど、ただ、ウェブというのはいかにスマートフォンとかノートパソコンが普及しても、持っている人、持っていない人の差がどうしてもあるわけです。だからそこを突破するために、例えば今、デジタルサイネージという

映像広告みたいなものがあるんです。薄いテレビみたいなのが街頭とか建物の中とかに設置されていて、そこで企業の広告とか、あるいはそのプロモーション映像みたいなものが流れているんですけれども、あれを区内に例えば設置して、天王寺区の商店街のここのお店がおいしいとか、何かそういう情報を載せたりとか、実際地域の人がそういうのをめぐりながら楽しんでいる映像をどんどんPRすることでアイボールシェアを奪って、その商店街に足を運ばせる、動線を確認していくとか、そういったこともいろいろ打ち手として考えられるわけですから、ここはもう私もほんとに必死に具体案を集めていきますので、皆さんのほうもぜひ、こういう具体案があるということをご提供していただけたらなというふうに思っております。

やっぱり企業との連携ということについては、これ内本委員もおっしゃいましたけれども、絶対的にこれは肝要と申しますか、これからやっぱりほんとにこのシティ・プロモーションに限らず、経済振興をやっていく上で、ほんとに必須だというふうに認識しております。いろいろ例えば、大型の再開発をとってみても、土地の取得から開発まで全部公設置で行えるような経済状況、財政状況でもございませんし、また、コンテンツ自体も、コンテンツ、まず企画です。企画内容自体も公務員がつくるよりも絶対民間の方々のアイデアを取り入れながらやったほうが、おもしろいものができるに決まっているわけです。だからそこはやっぱりエンターテインメント分野とかについて、民間の方々がご専門でやっていて、一日の長あるわけですから、行政主導、民間参加じゃなくて、民間主導、行政参加というぐらいの役割分担で進めていけるように、流れをつくっていくことがほんとに大切なんではないかなと思います。

今日、一番最後に、もしこういう方向性をご理解いただけたら、具体的な案を考えていきたいというふうにお話いただけたので、ぜひまた次回以降、いろいろ具体案を出し合って、どういうことができるかということをご詰めていけたらいいのかなというふうに思っております。

それから田中創三郎委員もおっしゃったように、大阪市もやっぱり大々的なイベン

トを検討していく流れになろうかと思えます。我々のほうもそれはやっぱり市の関係局といろいろと調整、話し合いをしながら、今400周年に向けてどういうことができるかということは今、リサーチしている段階ではございますけれども、実行委員会というお話も出ましたけれども、やっぱりそろそろ、どういうたてつけでこの件を話あっていって、どういうスケジュール感で一つ一つのイベントをやっていくかということをお話し合っていないといけない。もう時間も限られてきている状況ですので、そこは皆さんと慎重かつ丁寧に、そうは言っても、スピード感も持って、いろいろと考えていけたらいいんじゃないかなというふうに思います。

ちょっと駆け足になりましたが、以上でございます。

○田中（英俊）議長

シティ・プロモーション作業部会からの問題提起、質問に対して、丁寧にお答えいただきましてありがとうございます。

これで、市の、あるいは区長の考え方が明確になったわけですから、それをベースにしながら、シティ・プロモーション作業部会としてどういうことを具体的に考えていくか、あるいは委員の皆さんの個別の意見も吸い上げながら、区長に考え方をぶつけていきたいと思えます。この議論はいつも時間が足りなくなるところなんですけど、プロモーション部門は。もう1つ部会がございますので、個別の、特にこれは出さないといけないというのは、用紙で出していただくとして、次の部会のほうに移らせていただきたいと思えます。

○水谷区長

最後に、誤解しないでいただきたいのは、シティ・プロモーション課ではないんですけども、シティ・プロモーション担当で、シティ・プロモーションという文言を設けて、市民協働課の中にそういうセクションができることは間違いありませんので、そこはご理解おきいただけたらなと思えます。

○田中（英俊）議長

そうしましたら、教育・子育て・国際交流作業部会、田中誠悟委員お願いいたします。

○田中（誠）委員

基本的にはもう前から少し深みを増していったという形になっております。報告書という形で、企画書というか、基本的な概念から我々がどういう提案をするに至ったという基本的な概念をここに紙として出させていただいています。これは後でお目通しいただければというふうに思っています。

プレゼンのほうもちょっと時間的に飛ばしながら行かないとだめなので、新しく出てきた内容を中心にお話をさせていただこうと思っています。基本的な理念というところですが、これがやっぱり我々が一番大事にしているところです。まず我々がどういうところに主体を置いて、今からどういう企画を出していくんだということがこれです。我々としては、みずからの考え方をしっかり持って、やはり他者に対して発信をしていける人間、それを通して、やはり他者を受け入れることができるという人間をつくりたいというところに基本的な概念があります。これは恐らく、これを広めていくことで、いじめというものの対策にもなるでしょうし、社会を円滑に回すという意味で、これから国際化にも対応していけるような人材をつくっていくという意味でも、そのあたりに重きをおきたいということが我々の基本理念であります。

まず、その基本理念から出てきたものが3つあります。1つ目の提言としては、小中学校での国際交流プログラムです。これは前回も少しお話しさせていただきましたが、これは話を少し進めることができました。2番目のもうTERAKOYAという名前で行こうかというふうに考えているんですが、これに関しても我々としては大体の方向性をまとめましたので、そこも報告させていただきます。3番目のボランティアグループの創設ということですが、やはり天王寺区として、ある種簡単に使えるボランティアグループが役所主導ということではなくて、つくっていかなくちゃならないんじゃないかというところに、我々としては行き立っております。役所主導という

ことでは、これあまり使い勝手としてはよくないと思うんで、我々が住民として天王寺区をつくっていくという観点に立ったグループにしたいなというふうに考えております。

まず、その授業に外国人を派遣できないかというところなんですが、これは学校様ともちょっと相談していただいて、国際交流センターとも話を進めさせていただきました。どちら様からもいい感触のお話をいただいております、そのまままた、少しずつ進めていければなというふうに考えています。どちら様の意見も聞いた上で、行き着いたのは、やはり自由度がしっかりあったほうがいいんじゃないかと。授業に派遣してもらうのも一つですし、例えば土曜日にある種の講座を設けてというのも一つなんだろうけど、学校と国際交流センターが少し話し合う自由度があったほうがいい。こういう形に決まりましたので、こういう形で使ってくださいということよりは、その自由度があって、担当する教員の方がしっかりとその国際交流センターとディスカッションして、こういう授業をしたいのでこういう人材を派遣してほしいんだという流れを当事者同士が組み立ててもらえるような組織にすることが一番重要なのかなというふうに思っております。これが新しくつけ加わったというか、お話をしている上でつけ加わったところです。

あと、もう一つつけ加わったのが経費の問題です。国際交流センターに問い合わせたところ、やはり一回あたり恐らく1万円から2万円。留学生の派遣、交通費、それとやはり体験型にしたいというところを合わせると、ある程度体験してもらうような手土産が必要だろうというところも含めまして、恐らく1万円から2万円の費用が掛かってくるんじゃないかと。それに対して、学校側の負担もこれはあったほうがいいんじゃないか、というふうに我々の部会としては考えています。理由の一つとしては、やはり無料ということになると、どこも使ったほうが得だということになると、平等性が保てないんじゃないかと。ですから、ある程度学校側にも負担いただいて、よりよい組織として回していくためには、学校もある程度の相応の分担をお願いするとい

う形で、一回5,000円程度でできないかなというふうに考えております。そう考えると、小学校と中学校を合わせまして、年に初年度は恐らく4回ぐらいが限度かなというふうに、これは大ざっぱな計算なんですけど考えておりまして、約66万円ぐらいの経費がかかる。これを例えば学校が5,000円経費を持っていただいたとすれば、44万円ぐらいの経費がかかるんじゃないかなというふうに思っています。これによって、ある程度国際交流とか、やっぱり僕らが一番思っているのは、国際交流を通して他者というもの、違いというものをしっかり認識してもらえそうな機会をつくることができればいいんじゃないかなというふうに思っております。

次、2番目のTERAKOYA制度なんですけど、これに関しては、将来的にはまた、ここだけで一つのタームができるぐらいのお話があるので、次回もし話ができれば、これの将来的なビジョンも含めて、これだけでお話をさせていただこうかなというふうに考えているんですけど、最終的な終着点としては、子どもたちにいろんな本物を見せてあげたい。まず、入学金とか授業料を払って、音楽教室であったり、体操の教室であったり、陶芸の教室であったり、例えば能もそうでしょう、お茶もそうでしょうが、そういうことをする前の段階、つまり入り口としていろんなところを見せてあげて、その中からこれやってみたいなということであれば、本人さんたちが払っていただいとというようなところまで、最終的には持っていければいいのかな。そのときは、もちろん企業とタイアップして、宣伝してもらうことも可能なので、1回だけちょっとやってあげてくださいと。入り口としての場所を提供してあげる。それは恐らく天王寺区のそういう経営でやっておられるところの補助にもなるでしょうし、いろんなことを体験させてあげるという意味で、ご父兄様にもメリットはあるんじゃないかというふうに考えます。最終的にそこまで行ければいいなというところなんですけど、まずは来年度どこからやろうかということになりまして、まずは我々としては、ディベートの教室。ディベートというと、ちょっと言葉が強くて相手を打ち負かすということまで入ってしまうように思うので、言葉としてはもう少しやわらかくして、天王

寺子ども討論教室というのをちょっとして見ようかなというふうに考えています。この内容としては、例えば具体例の3つなんですが、もうちょっと具体例が何個かあるんですが、例えば専門的な分野の方をお招きして、その人のお話を聞いて、その後に意見表明とできればディスカッションというような形の案として1個目、国連はほんとに必要なのかと。サブタイトルとして、ほんとにそれで世界平和につながったのかというようなところをディスカッションしてもらいたい。

2番目としては、もっと本質的なものを例えばディスカッションさせる機会をつくらどうか。例えば安楽死はどうか、勉強はなぜするのか、労働はする必要があるのか、生活保護もそうですよね。生活保護13万円、13万円かどうかわからないですよ。13万円ぐらいもらえる。アルバイトで必死に働いて13万円。じゃあ、生活保護でいいのか。ここを子どもにディスカッションさせる、子どもにディスカッションまでいかななくても、意思表示をさせる。こういうテーマを子どもに突きつけることは、ある程度必要じゃないかというふうに僕は思うんです。ここをあまり隠してきて、世の中には競争がないかのような扱いを子どもにしてあげても、実際ふたをあけて、18歳になれば子どもは戦いの場に出されるわけですから、ここを若いときからしっかりとした考え方をつくってもらう。その機会をちょっとでも与えてあげることができるとは、非常に我々子どもを育てていく世代としては、重要なんじゃないかというふうに我々は考えます。

もう1つ、3つ目の提案としては、これは3種類目というべきなんですが、施設を実際に見て、その後討論するというパターンもおもしろいかと思います。例えば刑務所に実際に見学に行って、国際犯罪とか、あと死刑制度に関して議論をしてみるのもおもしろいんじゃないかというふうに思っています。これは刑務所にかかわらず、いろんな施設を見るという、この3本柱、実際に見るのか、それとも本質的な議論なのか、それとも専門家を招いての議論なのか、この3つともやっていければおもしろいんじゃないかなというふうに思っています。

これはさすがに人数的にはある程度限られまして、恐らく20人程度が限界じゃないかなというふうに考えます。ただ、天王寺区の中で、例えその20人が少なかったとしても、そういうディスカッションをすることで、やはり他者との違いというものをしっかり認めることができれば、そこから広がるものもあるんじゃないかというふうに我々は考えていますので、そういう提案をしていきたいなというふうに考えています。

これは今までの学校教育と塾とかっていう教育機関とは、かぶることはないと思いますので、その辺のすみ分けもしっかりできるというふうに考えます。

2番目の提案としては、天王寺子どもアンバサダー会議、アンバサダーは外交官ということなんですが、これは国際交流センターもせっかくあることですから、そことタイアップして、例えば世界のお菓子を総領事の婦人とかに説明していただくと。その中にいろんな体験を盛り込んでいくとか、あとハンガーバンケット。これは貧富の格差を体験するゲームなんですが、そういうことを通じて貧富の格差というものを体感する。これも違いを体感するということになると思います。あと、祭りを通していろんな祭りの情報を通して、世界の文化を知っていく。このあたりのこういうこともしていければ、おもしろいんじゃないかなというふうに考えます。これに関しては、子どもたちが楽しめるように、何回か挑戦していただけると、階級が上がって行って、その階級を上がったことを区長が例えば何か書面でもいいと思うんです。これはお金をかける必要はないと思うんですが、褒めてあげれば、子どもたちにとってはプライドになって、すごくそんなにコストをかけずに楽しんでもらえるんじゃないかなというふうなふうに考えています。ここの取組に関しては、もう少し落としていかないとだめかなというふうに思います。

これに関しての経費なんですが、恐らく講師の費用等が一番発生するのかなというふうに思っています。人件費はなるべくであれば、ボランティアを使っていきたいなというふうに思っています。講師はさすがにボランティアというわけにはいきませんの

で、これに関しては、謝礼と交通費が発生します。会場費に関してなんですが、これはできるだけ経費を圧縮したいので、国際交流センターとの共催の道を探って、なるべく国際交流センターの会場を使いたい。もしくは、例えば区役所を使わせていただいたり、区民センター等を使わせていただいて、なるべくコストを下げる。ここに関しては下げられるところですので、下げていきたいというふうに考えます。

それでもやはり経費として、恐らく1講座当たり5万円から10万円ぐらいの経費はかかるんじゃないかなというふうに考えます。我々としてはこの経費に関しては、スポンサーを入れることはできないのかなというふうに今、考えておきまして、できたらスポンサーに入ってもらって、ここの部分に関しては募金でなるべく賄うようにはできないかというふうに今、模索しております。

当初の間は、このアンバサダー会議と子ども討論会を交互に、1カ月ずつやっていて、全12回。恐らく100万円ぐらいの経費がかかると思いますので、ここの経費を何とか捻出する方向で考えていこうかなというふうに思います。

3番目なんですが、ボランティアグループの創設ということなんですが、これは先ほどもお話ししたとおりで、やはり天王寺区のサポーター的な問題。天王寺区というのは、やはり住んでいる住民がつくっていくものという認識を我々が持つべきかなというふうに思いますので、その認識にたったボランティア団体を創設することはできないかというふうに考えています。これはあらゆる世代に入っていくことが大前提ですし、できたら国際交流センターにも少し働きかけて、外国人の留学生の方も入ってもらって、それに参加することで国際交流もできるというメリットをつけてあげれば、大学生だったり、高校生であったりというのも、割と興味を持って入ってくる可能性もあるんじゃないかと。ですから、やっぱりメリットを何かつけてあげることは重要じゃないかというふうに思っておきまして、そのあたりをうまくまとめこめればなというふうに思っています。これもちょっと今、これはまだ動き始めたばかりですので、まだちょっと具体的なお話はしにくいんですが、将来的にはそういう天王

寺区が全体として使えるような天王寺区のサポーターとなって、みんなが応援してくれるようなチームになればなど、そこまでつくっていければなどというふうに思っています。ただ、これはまだちょっとごめんなさい、動き始めたばかりなので、あまり具体的なお話はできません。

以上が前回から進んできた部分であります。出水委員、何かほかつけ足すものがありましたら、お願いします。

○出水委員

実際、私たちの任期のこともありますし、実際に動き始めたいという思いがありましたので、内容的にもかなり具体的に、ちょっとずつ動き出して、実施案として挙げているような項目については、講師として考えている方には軽くちょっとアポをとらせていただいて、前向きに検討いただけるというお返事はいただいておりますので。あとはどれだけうちのほうできっちりできるかだと思います。

○田中（英俊）議長

ありがとうございました。前二つは、基本的な今後の具体案を考えるに当たっての基本的なことに対して、区長に質問するという形でしたけども、この部会は具体的なテーマをこうやって進めていきたいということにつきまして、報告がありました。皆さんからこの提案に対するご意見とか、あるいは質問があればお願いしたいと思います。それが出たところで、また区長のほうからご見解をいただければというふうに思います。どなたかご意見、ご質問のある方いらっしゃいますか。

○飛田委員

いい話だとは思いますが、1つ聞きたいのは、これは一体誰が主体としてどうするのかという。その組織はどうするのかという。具体的にやられるというお話だったんですけど、多分この戦略会議の中でやることではないので、これを受けて責任を持つ組織というのはどこになるんだろう。それがもし、区じゃないとしたら、区政じゃないよねという気もちょっとしたのが1つで、それとあと、TERAKOYAという

のは、今のお話を聞いていると、これって学校と違うのという気もしたので、その辺も含めてちょっとどう思われているか聞きたいんですけど。

○田中（誠）委員

まず、国際交流プログラムに関しては、区が主体ではないと思いますが、区がある程度のフレームを持つと、それに対して学校と交流センターが話し合っただけで決めていくという形でいいと思うんです。あまりこれで大きな問題が生じるということは、今もそれに似たようなことはやっておりますから、何かその大きなトラブルが起こって、その責任問題が問われるということは、あまり想定はする必要はないのかなというふうに今は考えています。ただもし、そういう案件があるということであれば、またそのときにそのの所在ははっきりさせたほうがいいかもしれません。TERAKOYAに関しては、出水委員、今のところは。

○出水委員

そうですね、実際の組織体系になると思うんですけども、これは恐らく実行委員会制になってくると思うんです。区役所に事務所を置くとか、どこに事務所を置くという形ではなく、区役所からも国際交流センターとか、あと戦略会議の中からも何人かもしお手伝いいただけるような方という形で集めて、実行委員会制で動ければなという思いはあります。どこかが人とお金を管理するところが絶対必要になってくると思いますので、それを区役所に完全に丸投げしてしまうわけにはいかないですし、ちょっとこの辺はスポンサー回りをするというのもありますので、その辺を含めてちょっとまだ検討中なんですけれども、理想としては実行委員会制でやりたいという思いは持っております。

○田中（誠）委員

あと学校との相違点ということに関してですが、やはり学校では実際死刑制度の話ができるのか、ここのディスカッションができるかという点、恐らくこれに関してできることはないと思うんです。我々としては、学校と何をすみ分けとしているかと言

うと、学校というのはやはり浅く広く、全ての子どもに対して教育をすべきだという概念のもとに立っているというふうに考えます。我々がめざしているものというのは、やはりその中で将来のリーダーになっていったり、いろんな形である程度意識をしっかり持った子どもたちもその意識をもっと刺激してあげることが重要じゃないかというふうに考えています。ですから、薄く広くというよりは、ちょっととがった形になるんですが、そういうふうな教育機関もあっていいんじゃないかと。それは今までみたいに区がやること、公がやることは全て浅く広くということではなくて、いろんなその興味を持った人材をその興味を引き伸ばしてあげたり、ある種の入り口になってあげたりするような組織を公が運営することは、あまり問題ではないと思っています。そういういろんな組織がある、多様性がある、つまり公がやることなのに、浅く広くもあれば、こういうのもあって、子どもたちが何を選んでいくのかというような形をとってあげるほうがいいのかというふうな考え方に立っています。ですから、将来的に入り口をつくってあげたいというのがそこなんです、全員がそこに来て入り口になるわけではなくて、こんなんもあって、こんなんもあって、こんなんもあるよ、じゃあ、これおもしろそうやな行ってみよかというような形がとればいいのかと思うんです。ですから、3Dのプリンターでやってみた、やってみたいという子もいると思うんですけど、やってみたくない、興味のない子もいると思うんです。でも、そういう窓口があるとおもしろい、そこに行ってみて経験ができた、経験ができるとこんなんおもしろいな、じゃあ、ちょっとこういう建築系に進んでみたいなという入り口を僕はつくってあげたいなと思います。

それをしてあげたいという、飛田委員がおっしゃっているような、飛田委員のような方もおられれば、僕も子どもが多分動物病院に来てくれるというんやったらおもしろいなと思うんですよね、そういう受け入れたいという人間もいてると思うんです。そこをうまくつなげたいというだけのことなので、学校とは少し一線を画しているというふうに考えます。

○田中（英俊）議長

区がどういうふうにかかわることができるかということにつきましては、今聞いてしまいますと議論が進まないと思いますので、とりあえずご意見をもうちょっと伺ってから、水谷区長のお話を聞きたいと思います。どうぞ。

○三木委員

飛田委員がおっしゃったTERAKOYAと学校との違いについてなんですけれども、これはこちらにはまだ具体的に書かれていないんですが、作業部会のほうで出た話として、私はやっぱり学校の中でいじめが解決されていないのが現状だと思うんです。ただ、TERAKOYAとして今の時点で、いじめについてもTERAKOYAで例えばいじめ相談という部門を設けるということは、やはり学校の反感を、学校で本来やるべきことだと反感を買ってしまうんじゃないかということで、こちらには載せなかったと思うんですけれども、将来的にはそういったいじめについての部門であったりだとか、あとは逆に討論教室において、学校とは違う場所で、先生とは違う人たちが子どもたちとかかわることによって、いじめの早期発見であったりだとか、あとは、そのいじめをしない子どもたちを道徳教育討論のルールなんかを通して、学んでもらうというようなことで学校との違いがあるんじゃないかと思います。

○越村委員

TERAKOYA自体の発想はとてもおもしろいし、楽しみだなと思うんですが、子ども討論教室に関して、例えばこのテーマだと子どもが相手なので、講師とか進める方が、おもしろいテーマだとは思いますが、やっぱり教育的配慮とか、フォローがきっちり入れられないと、えらいことになってしまう可能性があるんで、こういう題でするんだったら、ちょっと区としても関与というか、しんどいんじゃないかなという。

○田中（誠）委員

あえてこういうテーマをぶつけることで、情報リテラシーというものをしっかりと

子どもに教えようというふうに考えます。こういう討論の場には、必ず一番最初に、情報リテラシーの話をさせていただきます。10分ぐらい、15分ぐらいで。つまり、今は結局、子どもたちがネットでいじめをするわけじゃないですか、表に出なくても。そういう時代になっていますよね。ですから、ここに参加してもらう人には、子どもたちに情報というのはこういうふうに考えて、裏でごちゃごちゃ言うたらあかんねんで。討論というのは、表に立ってしゃべることであって、それを家に持ち帰ってインターネットに書くことはだめなんだよということも含めて、ここでは授業をさせてもらおうと思っています。その上で、子どもに対しても誓約書を書いていただこうと思います。場外乱闘はしないという大前提の誓約書を書いてもらおうと思います。これは子どもの名前で書いていただく。それで親の名前でも書いていただきます。

ですから、子どもに対してそこまで求めようと思います。全てを今までみたいに隠してしまうことがほんとに正義なのかというところは、僕は疑問を持っています。子どもにはそういうふうなものを全ておぜん立てして、しっかりとしたその教育の上で、ほんとに触れないとだめな、死というのはほんとに触れないとだめやと僕は思っています。これを目をつぶって生きていけるわけではないので、競争もそうですが、社会で競争があるわけですから、それに対して目をつぶって、手をつないでということにはならないというふうに思っています。ですから、それも大事ですけども、そこに対して、答えがないものに対して議論を進めていくことってすごく重要だと思うんです。ごめんなさい、僕のこれは勝手な考え方ですが、人生の深みはやっぱり答えのないものに対して、どれだけ挑戦してきたかというか、どれだけいろいろ考えてきたかだと思うんです。

それに対して、今の若い人はなかなかすぐ答えがわかってしまうので、答えの出ないものに対して答えを探そうとしないところに大きな問題があるんじゃないかというふうに僕は考えています。ですから、あえてそこを突きつけないところ、これがこの趣旨です。ですから、やる限りは、区長がどこまで覚悟を持ってやっていただける

かわからないですが、やる限りはそこまでの覚悟をして、子どもに対してサインをもらうぐらいまでの覚悟をしようというふうに考えます。そこまでのものをしないと、多分中途半端につぶれてしまうというふうに考えます。

○河村委員

とてもこれおもしろい。討論教室も子どものアンバサダー会議もとてもおもしろいなど。うちの子も参加させたいなと思うんですよ。その対象年齢というのは？

○田中（誠）委員

案件によって違うと思います。それはおっしゃるとおりなんです。それはごめんなさい。各案件で決めて、それを決めたら学校サイドから配布してもらうような形にして、できる限り子どもの目に触れるようには頑張っ努力してみたいと思います。

○田淵委員

今、田中（誠）委員の説明、僕も大賛成なんですけど、最初から人数ふやすということは現実的ではないかもわかりません。ただ、田中（誠）委員がおっしゃったように、少数精鋭というか、そういう方針で行かれるということなんですけど、僕は長い目を見た場合は、もうちょっとやっぱり間口も広げることも並行して考えてほしいなと思います。

○田中（誠）委員

おっしゃるとおりです。僕らの目的は、ほんとは間口を広げたいんですが、最初からちょっと難しいからというところで、ちょっと遠慮させてもらっています。

○三木委員

皆さんにこの場で、もしご意見がいただけたらありがたいんですけども、参加費は原則ワンコインを想定というふうを書いてあって、ただここは作業部会の中で、私がちょっと異論を申しまして、やっぱり500円って、たかが500円されど500円で、この500円が捻出できない家庭の子ども、親に500円を出してほしいと言えない子ども、今いろんな家庭があられると思うので、私は子どもから500円とい

うのは取らないで済むようにできないかなというふうに思うんですけども、ちょっとそれは私だけの意見だったので、皆さんはどういうふうに思われるかなというので、もしご意見いただければありがたいです。

○田中（誠）委員

一応500円を徴収しようという趣旨は、徴収する賛成側の立場としては、何人かの委員の話をまとめますと、やはりクオリティーを保つには無料はまずいだろうと。無料だからとりあえず申し込んでいて、ドタキャンすると、そういうことになってしまうとクオリティーが下がってしまう。やはりある程度、経済的に大変な方もおられるというのはわかるんですが、せめて500円ぐらい、だから落とすどころとして500円ぐらいいただいて、ある程度のクオリティーを維持したいというのが我々の考え方です。

まさか500円で経費が全部出るわけじゃないことは我々もわかっているので、むしろ500円を払うというハードルを設けることは、それぐらいであれば妥当じゃないかと。確かに500円厳しい、それはいろんな方がおられるのはよくわかるんですが、やっぱり低くてもハードルをつくっておかないとクオリティーの維持が難しいんじゃないかというのが徴収しようという側の意見です。

○三木委員

ハードルとして別の意見を私は持っていて、逆にそんな人数が限られている、特に最初のうちは。その中で、例えば参加したい人には意欲がどれぐらいあるかというので作文を書いてもらう、もしくは簡単な面接を行うということで、そういったハードルをクリアした子どもたちであれば、500円を出す出さないにかかわらず、そういった子どもたちというのはドタキャンしたりであったりとか、そういう無責任なことはしないんじゃないかなというのが私の意見なんです。

○田中（誠）委員

そのハードルの問題点としては、僕は2つあるかなというふうに考えています。ま

ず1つはコストです。その前段階で振り分けをするという段階になると、まずはコストが発生します。これをボランティアで我々がということになると、これは継続可能ではないのかなど。つまり継続可能にするためには、そこに何らかの人件費なりがかかってしまうことが1点。

それともう1つは、作文となると、私は理系だったので作文が非常に苦手でした。小学校のとき作文を書くのが苦痛で苦痛で仕方がなかったんですが、作文を書くことにもじつはハードルがあるんです。ですから、全員平等ということは不可能だというふうに私は考えていまして、僕は書くのは嫌いだったんですけどしゃべるのは好きだったんで、そういう人間も要るんです。ですから、作文が全てにおいて平等だということは、僕はあまりないんじゃないかというふうに考えています。

この2点において、じつは問題があるんじゃないかなというふうに僕は思います。

○田中（英俊）議長

この点、部会内でまだ議論がまとまってないようでございますが、もっとご意見を伺いたいんですけど、区がこのテーマに関して、どういう形で関与できそうなのか、可能なのか、あるいは関与すべきなのかということもあろうかと思っておりますけども、区長のお考えをお聞かせいただければと思います。

○水谷区長

田中（誠）委員のほうから今日プレゼンテーションいただいて、作業部会ほんとに田中（誠）委員はじめ皆さんほんとに精力的にやってくださって、私もほんとに中間報告をたびたび受けて、その中では田中（誠）委員と激しくやりとりしたこともあったかなというふうに思うんですけども、今日、一応まとまった案をこうやって聞かせていただいて、ちょっと感動してしまったというのが率直な感想です。単にロジックだけじゃなくて、ほんとに田中（誠）委員が今の子どもたちにとって何が必要かということ、熱意を持って考えてくださっているんだなというのが、ひしひしと伝わってくるプレゼンテーションだったかと思っております。

基本的に、これは区政会議の場ですから、区の政策としてこういうのはどうかというご提案だったというふうに私のほうは認識しているわけでございまして、ただまだ、来年度の予算もこれは要求しているという段階で、正式にこれ議会のほうで可決されているわけでもございませんから、まだはっきりとしたことは言えませんですけども、区長としては、こういう趣旨の、いま田中（誠）委員がおっしゃったようなことはぜひやりたいなというふうに思っています。区として予算要求している中にも、子どものための社会教育プログラムというものを積極的に実施していくということで、設けさせていただいておりますので、またそういったところの中で、まだ細かい調整はまたいつになるか、また先々の話になってこようかと思っておりますけれども、ぜひ検討させていただきたいなというふうに思っております。

内容のことなんですけれども、なぜこの案を私がいいかと思う理由が主なものとして、要はこれ放課後利用事業という形でやるか、学校の授業の中に組み込むかというところで、また議論はあろうかと思うんですけども、基本的に私は放課後利用の事業という形になるのかなというふうに捉えています。放課後利用事業というのは、要するに多くの自治体で例えば補習授業をやっていたり、地域の文化体験とか、職業体験とか、そういうことをやっているところは多いんですけども、要は公立学校教育の中で提供されてない教育を、補完的に放課後を利用して提供すると、そういう事業かと思えます。そういうところを鑑みたときに、このTERAKOYAがやろうとしているディベートじゃなくて、子ども討論教室ですか、これ僕個人としては子ども討論のほうがディベートよりもちょっと強い表現なんじゃないかなと思うんだけど、そこはネーミングの問題かと思えます。

これは今の学校現場の中でも、非常に機会が限られているのではないかなと認識しています。文部科学省のほうで、新学習指導要領というのが設定されて、それに沿って各学校で教育が行われているわけでございますが、その中の1つの項目で、豊かな言語表現で自分の思いや考えをあらわすことのできる子どもを育てようということで、

教育が進められてきております。具体的にどういう教育かと申しますと、例えば小説とか詩を読んで、これについてどう思ったか、どう感じたかということ、私は登場人物のAがかわいそうだと思ったと。登場人物のAを助けてやりたいと思ったと。これはみんなで意見、感想を言い合って、それを教育現場では意見交流の機会というふうに定義しているわけですが、これはこれでいい教育だと思うんですけども、私は絶対これだけでは足りないと思います。

何が足りないかと2つあって、1つはみんなで集まって意見を言っているようですけども、それはモノログです。独白、私はこう思ったって言うだけで、あなたの意見のここについて私はこう思う。ここは間違っていると思うって、そういう相互の作用がないと。こういうのをやっぱりもっと教育の中で取り入れていかないといけないのかなと思います。

それから2つ目にやっぱりそういう思いとかそういう感情部分です。私はこう思っでこう感じたということが発話する機会というのは、自分の小中学校の時代を振り返っても、教育現場で多くあったなと思うんですけども、主に論理ですね。どういう筋道で物事を考えて、相手の意見の論理構造をちゃんと的確に捉えて、それに対して的確な賛成意見ないし反対意見を加えるという訓練機会がやっぱりどうしても義務教育課程において、非常に限られているのではないかなというふうに印象を持っております。やっぱりちゃんとしたロジックの教育とか、ディベートの教育とか、議論の作法とか、幼年期からちゃんとやっていかないと、これは別に天王寺区、大阪に限らず日本はだめになってしまうと思います。だからそれをこういう地道な取組の中でやっていくということは非常に意義深いことなのかなと思います。

実際このテーマも幾つか挙げていただきましたけども、国連は必要かとか、勉強はなぜするのかとか、ちょっと子どもには難しすぎるんじゃないのかと、やっぱり対象年齢を考えたほうがいいんじゃないかという意見もあるかもしれませんし、実際やる上でそういうのはやっぱり考慮しないとイケない部分があるかもしれないですけども、

子どもだからって、手かげんする発想であまり事業内容を決めないほうがいいと思います。たぶん田中（誠）委員もそういう観点で、思い切ってこういうテーマを掲げたと思うんですけれども、やっぱり答えが出ないんです。大人でも答えが出せないようなテーマなんです。だから子どもでも答えがすぐには出せないのはこれは当たり前のことなんで、そういうのを子どものときから徹底的に考える、考えるくせをつけると。考えて考えたことを自分の中で再構成して、意見として表現すると。相手の意見を捉えて、またさらに真新しい意見を出すと。そういうことになれていく子どもというのを1人でも多くふやしていけたら、それはこの街の宝でしょうし、この国の宝だと思いますから、ぜひそこは子どもだからこれぐらいのテーマでいいだろうとか、変に委縮せずにどんどん企画していただきたいなというふうに思っております。

それからさっき、ワンコインの話とか、経費の話とかもしていただいたわけですが、なかなか得てして区役所に寄せられるこの政策提案ってアイデアベースのものが多くて、広報を強化したほうがいい、防災をもっとやったほうがいいと言って、結構区役所ってじつはやっているわけです。それをどういうふうに強化したらいいのかとか、そういう具体案というのが、すごい我々として聞きたいわけですが、まさに今回の田中（誠）委員にやっていただいたのは、そこら辺の具体案もちゃんと備えていて、かつまさかこの経費部分とかそういうところまで言及されているとは思わなかったんで、非常に驚きました。ただ、この経費の見積もりとか、実際それをどういう形で支出していくかということは、これはいざこれ区の事業とかでやるということになったら、そこはよく担当者とまた相談するなりしてやってください。これはあくまで多分イメージというか、あらあらの試算でこうやって出していただいたというふうに思っていますので、これも一つの参考要素として見させていただくというふうにとどめて、また考えていけたらなと思います。

一応今日、議論を聞いていましたら、まだ作業部会のほうでもこのTERAKOYA案で完全にまとまっているという状況でもなさそうなので、もう少し部会内での議

論も必要なのかなというふうに思いました。ただ、方向性としては、私も非常にこれ、同じ歩調を合わせて、やらせていただきたいというふうに思っておりますから、また今日は中間段階でのこの議論だと思いますから、最終段階でこうやって議論をさせていただいて、またそのときには区として、この案を採用するか、あるいは採用しないか、あるいはまた別のアレンジの仕方で導入していくかとか、一定の判断をさせていただけるようなそういう議論ができればよろしいのかなというふうに思っております。

最後になりますけれども、非常に具体的でおもしろい、自分が子どものころに戻れるんだったら、こういう機会に参加してみたいなど、そういうわくわく感を呼び起こすようないい企画内容だったというふうに思います。ほんとにありがとうございました。

○田中（英俊）議長

お疲れさまでした。私自身、いっぱい言いたいことがあるんですけども、時間を見たりしまして、皆さんもそうだと思いますけども。今日はこれから進めていくに当たって、区長がどういうふうに我々の部会から出たテーマを捉えているかということを中心に議論して、次回に報告するためのベースができたということで、ご容赦いただければというふうに思います。

そのほか、提案とか意見とか、この会の進め方とか、特に意見のある方いらっしゃいますか。

○三木委員

意見シートにも書いたんですけども、せっかくなので意見させてください。

○田中（英俊）議長

2、3分でお願いします。

○三木委員

わかりました。ほんとに水谷区長がおっしゃったことについて、すごく違和感を感じました。区政戦略会議委員という立場を利用して別団体等で不適切な言動をしない

でございますということで、これはもしかして私のことなのかなとちょっと思ったんです。というのも、ある委員から、水谷区長へ私に対する苦情が来てるというようなことを聞きました。私はその他団体において、区政戦略会議委員である立場を利用したことなどないんですけれども、また水谷区長から直接その件について聞かれたこともないんですけれども、もし私のことを指してるのであれば、きちんと事実確認を討議していただいた上で、判断していただきたいと思いました。

○水谷区長

これはもうあくまで一般論としての皆さんへの周知というか、そういうことでございます。もう当然の原則ですから。例えば私は区長ですけれども、天王寺区の区長ですよ。それがほかのどっかの自治体に行って、いきなりそこの市役所に入って、ここの政策が間違っているからこうしろみたいなことを言い始めたら、何であなたはそんなことを言うんだって、俺は天王寺の区長だ、なんて言ったらこれは大問題ですよ。だから、もう改めてやっぱりほんとに皆さんも私も重要な職責を負っているわけですから、何のためにその職責を負っているかと言えば、こうやって集って区政に対していろいろ論じ合うためであるということ認識徹底して、頑張っていきましょうと、そういう呼びかけのつもりでご説明させていただきました。

ですから特に今の段階で誰がこうあるから問題だとか、そういうのを別にとりだしたいわけではないので、あくまで一般論ということで、皆さん認識を共有していただけたらなというふうに思います。

○田中（英俊）議長

ほかに特に何か聞きたいことございますか。はい、2、3分にしてください。

○田中（誠）委員

議長に1つお願いがあるんです。議長は金融関係におられたということで、TERAKOYAでお金は汚いかどうかという議論を子どもにしてもらおうかと思って、そのときにはぜひ来ていただけないかということなんですが。

○田中（英俊）議長

銀行員の立場であれば、いろいろ言うこともあります。それはそれでまた機会がありましたら。せっかくの機会でございますので、足高議員から一言いただければ。

○足高議員

今日、前回私ちょっと辛口で皆さんに予算のこととかお話しさせていただきましたけど、今日はそこまで踏み込んで、すばらしい絵を描いていただいたなと思っています。ただ、そのまま行政がかわってできるかどうかはまたいろんな問題があるでしょうし、また皆さん方がそれぞれでまた、別のいろんなところをボランティアも含めて、いろんな人をお助けいただいてやることもまだまだ詰めがあるのかなというような思いです。区長の25年度の予算案というのは、まだ案ですけど、まだ通っていませんから。非常に寂しいんです。天王寺区長さんの自分で調整できる予算というのは、確か20位ぐらいでしたかね。24区中20位。

○水谷区長

人口も2番目に少ないですから。

○足高議員

それは少ないけど、僕は区長は若いからもっと頑張ってようさん取るんかなと思っ
ていたんですけども、なかなかやっぱり厳しいようです。もう1つ大きなのは、シ
ェイマネジャーの分。これのほとんど局の予算とかぶさっているんです。じつは今日
私の関係の委員会があって、6常任委員会ありましたけど、そこでは同じことが局の
予算の中に書いてあるんです。ただし、区長の分はその上に括弧で内訳で書いてある。
これが自分のものにならんと、なかなか皆さんが思っているようなところまでお金が
回ることは難しいかもわかりませんが、多分区長は、今年度はもう間に合いません
から、次年度ぐらいでは頑張って枠を外して自分のところへ持ってきていただいたら、
皆さん方のすばらしい提案は行政がやるか、皆さんがやるかにしても、十分対応でき
るのではないかなという思いを今日いたしました。

ほんとに前回に比べると非常に中身の濃いものになったと思います。ご苦労さんでした。

○田中（英俊）議長

ありがとうございます。私も一言だけ。いいかどうかっていうことで聞きますけど、堺市の研究所に論文を書きました。1万字ばかりの。その中で市の経営をどうやってやるかという流れの中なんですけども、大阪で区があるいは区長が局長よりも権限を持って、独自の予算を持って、今までの区政会議とは違った形で市民、住民の声を聞きながら、自分の政策に生かしていくということで、活発な議論が行われているということを書いて、もう原稿を送ってしまったんですが、それはよろしいですか。

○水谷区長

それはもう田中議長のその原稿に私が口を挟める筋合いもございませんので。

○田中（英俊）議長

何で書いたかっていうことで言えば、同志社大学の教授とそれから今の大阪夕陽丘学園の理事長とそれから天王寺区区政戦略会議議長という、じゃないと何でこんな書いたと言われますので、それは大丈夫ですか。

○水谷区長

それはもうもちろん、この会議の内容を外に伝えていただいたということなので、ごめんなさい、偉そうに物申してすみませんでした。

○田中（英俊）議長

私も最初の発言、何か意味がよくわからなかったものですから。

○水谷区長

これもプレスも入れる会議ですし、傍聴の方も入れる会議ですし、全然差し支えないです。

○田中（英俊）議長

そういうことで、発信することは大丈夫なんですね。

○水谷区長

もちろんです。そんな秘密の会議じゃないですから。

○田中（英俊）議長

立場を使って、何か圧力とか影響力を行使するようなことはやめてほしいということですね。

ということで、今日は時間かかりますけど、最後に今日の全体の議論を踏まえて、区長から一言あればお願いいたします。

○水谷区長

ほんとに3部会、それぞれ私自身、ほんとに学ばされる、ここはちゃんとこうしたいといけないなということを感じかされるところが多くて、この流れをぜひ堅持していきましょう。また今後ともよろしく願います。

○田中（英俊）議長

それでは本日の議事は以上とさせていただきます。事務局のほうにお返しいたします。

○事務局

ありがとうございます。本日も熱心なご議論どうもありがとうございました。先ほど議長のほうからご紹介もありました、ご意見シート、お配りしておりますので、また思うところとかございましたら、ご意見シートに書いていただくか、メールでお寄せいただければと思いますので、よろしく願います。

今回の会議日程ですけれども、次は4月の開催で予定のほうをしております。また詳しい日程は改めてご連絡させていただきたいと思います。月に1度ということで、2月中に開催できなかつたこと、申しわけございません。また日程調整させていただきますので、よろしく願います。遅くまでどうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

—了—